

【実践報告】

教育実習Ⅱ・Ⅲ（小学校）の報告

広島文教女子大学人間科学部

初等教育学科 教授 佐伯育郎

1 はじめに

小学校教員志望者が、実際の教育現場に出て行う4週間（20日間）の実習である。これまでの教育実習Ⅶや教育実習Ⅰにおける学びを生かして、学生自身が実習校の児童を対象とした実際の授業を担当する。この実習を通して、子どもの実態を理解し、現場の教員と小学校の実態、地域との関係等々を体験的に理解するとともに、教師としての使命を自覚し、教育に対する意欲を高め、教師として必要な資質能力の向上に向けて自己の学修課題を明らかにすることを目的とする。

2 実施のスケジュール

項目	時期	主な内容
事前学修 (学内)	4月～5月 7月～8月	<ul style="list-style-type: none">・実習校から教育実習受け入れ通知書が学生サポート課へ届く。学生サポート課に出向いて確認した後、実習校へ電話でご挨拶をする。・教育実習事前説明会に参加し、教育実習Ⅱ・Ⅲの意義、目的、心構え、手続き等を再確認する。教育実習記録を受け取り、記述方法や書類などの提出について理解する。・実習校への事前訪問により、指導担当教諭などから、配属学年、配属学級の児童の実態や、教育実習の全体計画、実習の事前課題などを確認する。教育実習出勤簿や教育実習評価票などについて説明し、実習校へ提出する。
本実習 20日間 (学外)	9月～12月	<ul style="list-style-type: none">・実習の内容は、実習校により計画される。実習中は教育実習日誌等の記録を取り、小学校教諭の職務等についての理解を深める。・主な学修課題として、①教育の理論と実践の一体化②基本的教育技術の習得③発達期にある子どもの理解④教育的人間関係における相互作用についての学習⑤教育者としての自覚の高揚、が挙げられる。観察・参加はもとより、実習授業に関しても万全の準備をした上で意欲的・主体的に取り組む。
事後学修 (学内)	10月～1月 平成30年度は 12月4・7・13 日5コマに実 施。今年度 のタイトルは “みんな無限 大～みせる底 力”	<ul style="list-style-type: none">・各自の教育実習を振り返り、実習校から返却された教育実習記録を読み返し、加筆・修正をしてまとめ直す。校長、指導担当教諭からの所見にも目を通した後、学生サポート課に再提出する。・教育実習記録をもとに実習校での学びを振り返り、教育実習報告会用のレジュメを作成する。提出されたレジュメを印刷・製本し、教育実習報告書を作成する。・教育実習実行委員会を中心に、教育実習報告会を企画・運営する。・実習報告会では、児童理解の実態とその手だて、真似したい指導法とその意義、自身の課題と課題に対する考え方など、学生が主体的に設定したテーマに基づき、小グループに分かれて討論・発表を行う。他学年の学生や教員も参加し、議論に加わる。・報告会終了後、振り返り冊子を作成・発行することで教育実習のまとめとし、今後の学びに生かす。

3 活動の概要

(1) 実習授業・研究（査定）授業の主なテーマ等（学生の報告資料より抜粋）

教科名	対象	単元・題材名
国語	第2学年	名前を見てちょうだい
書写	第2学年	画の方向
社会	第5学年	工業生産と工業製品
算数	第4学年	計算のやくそくを調べよう
理科	第5学年	流れる水のはたらき
音楽	第2学年	虫のこえ
図画工作	第2学年	くしゃくしゃぎゅっ
学級活動	第1学年	女の子 男の子
体育	第1学年	ボール遊び ～ボール投げ運動～
道徳	第6学年	どうすればいいの？
外国語活動	第3学年	What do you like ～？

(2) 教育実習を通して学んだこと（学生の報告資料より抜粋）

・配属クラスの学級経営

担任の先生が大切にされていたこととして、1時間で何か1つでも「わかった」という気持ちを味わわせるということがある。「めあて」と「まとめ」がつながっているかの確認も細かく行っていた。また、使い切った自主学習ノートを棚に積み重ねていき、努力を可視化するなど児童のやる気を引き出すための工夫も多くなされていた。言い合いや喧嘩が起こった時には何をしている時でもそこに関わっている児童一人ひとり個別に呼んで話を聞き、それぞれの言い分を確認してからお互いに話し合わせる形を取っていた。（配属：第3学年）

・真似したい実習校の先生方の指導法・工夫とその理由

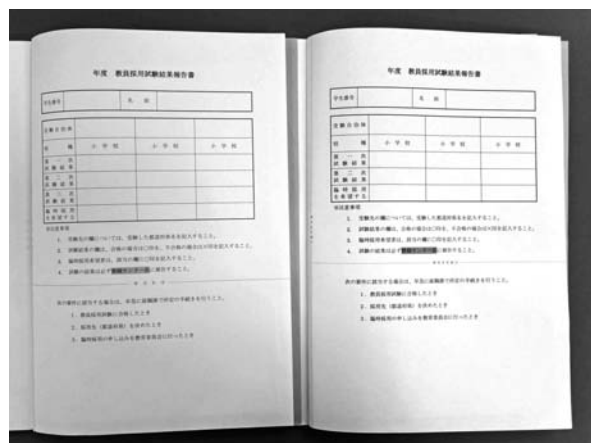
実習校のほとんどの先生方は、授業中の小さな疑問でも授業に活かされていた。「え？」「なんで？」といった後ろで観察している私でさえ、聞こえないような小さな声のさりげない言葉も先生方は取り上げ、クラス全体に共有し、一緒に考えていた。そのため、予定の授業内容までいかなかったり、授業内容を変更したりしていた。だが、理解しきれなかったと考え直す機会になったり、自分の理解に自信がついたりしていた。また、豪雨災害で授業進度が遅れていても、児童の理解を優先して授業を行うことも重要であると感じた。児童も理解度を第一に考え、授業を行っていく姿勢を参考にしたい。（配属：第2学年）

・「私ならこうしたい」と考える自身の指導法・工夫とその理由

授業の大切な場面では、児童同士の言い換えや繰り返しをたくさんしていきたいと思った。言い換えることで、発表している児童も聞いている児童も理解を深められるからである。重要な部分を繰り返すことで、重要であると認識できると考えた。また、先生が言っていることや最後にまとめることが正解で重要なのではなく、児童の発言の中に良い気付きがあり、重要なことがたくさんあると気付かせ、児童の考えをよく聞くようにさせたい。そのような活動が、教師による教授だけでなく、児童主体の授業を作っていくと考える。（配属：第4学年）

4 成果と課題

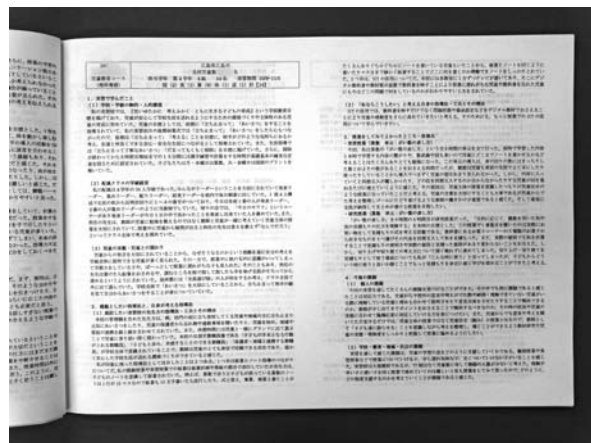
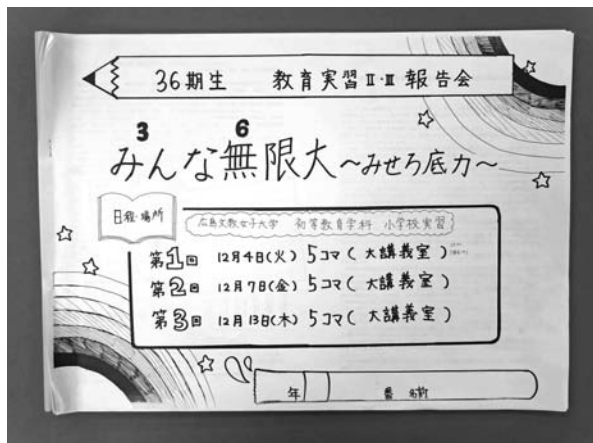
今年度も、教育実習記録を改訂した。記述内容を整理するとともに、付録の教員採用試験結果報告書を自治体に応じて三次試験の結果まで書けるように改訂した。表紙には、学生サポート課による受付印を押す欄を設け、提出日を確認しやすいよう改善した。例年通り、教育実習Ⅱ・Ⅲ担当教員2名で教育実習記録の閲覧・確認を行った。実習生による記述、指導担当教諭の所見など、今年度は総じて充実した内容であった。



【教育実習記録（小学校）左：新，右：旧】【教育実習のまとめ 左：新，右：旧】

実習授業の時間数は通常10時間程度と学生に指導しているが、実習校の事情などもあり2時間から18時間までの開きがあった。

実習報告会実行委員は、昨年度と同様入念な準備を行い、レジュメ作成の際には実習期間を考慮して、所属ゼミナール毎の締切日を設定しており、実にきめ細かな運営であった。学生による記述の差もそれ程大きくはなかったが、実習報告会までに提出できなかった学生もいたことが反省点である。実習報告書の内容は比較的充実していたが、読みやすさという点については今後もよりよいものを目指して改善していきたい。



【初等教育学科36期生 教育実習Ⅱ・Ⅲ（小）報告書】

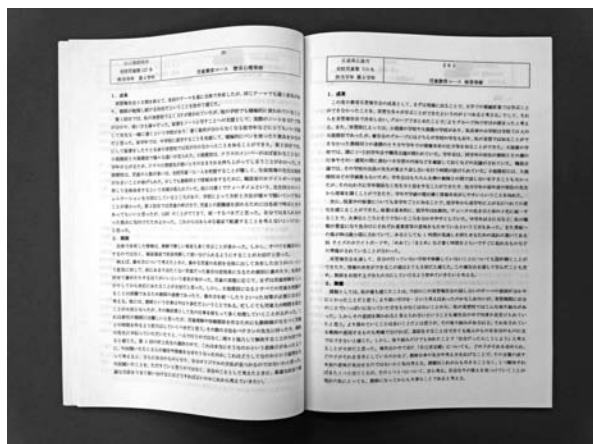
実習報告会は、例年通り3コマ実施した。3コマを通して、3年生は全員出席であった。下級生の参加は、昨年度よりも少なかった。発表には、iPadを活用しており、視覚的にもわかりやすいものであったが、グループによっては見えにくい内容も見られた。討議・質疑応答については、1・2回目はあまり活発な議論が見られなかったが、回を重ねる毎に討議内容などを修正し、3回目では比較的充実した内容となった。臨機応変な対応ができる実行委員たちであったといえる。議論が停滞した要因には、実習

報告会の討議内容が主に関わっているものと考えられる。実習報告書の内容は充実していたため、それを報告会にも反映させる必要があろう。反省点は、今後に活かしていきたい。



【初等教育学科36期生 教育実習Ⅱ・Ⅲ（小）報告会】

実習報告会の終了後、例年通り「教育実習Ⅱ・Ⅲ報告会 振り返り冊子」を作成した。全3回の報告会で出た参加者からの質問に対する回答なども記述されており、充実した内容となっている。今後も、学生の主体性・協働性を大切にしながら、よりよい方向へと支援していきたいと考える。



【初等教育学科36期生 教育実習Ⅱ・Ⅲ（小）振り返り冊子】